

産学官連携イベントレポート

『第9回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会』 審査会・表彰式レポート

平成25年3月7日（木）、東海大学校友会館（東京都千代田区霞が関）で『第9回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会』が開催され、8地区（北海道・東北・東京・中部・大阪・中国・四国・九州）の「学生によるビジネスプランの提案コンテスト」のエリア代表プラン（15件）の中から、ビジネス・テクノロジーの各大賞と特別賞が決定しました。

中国地域からは、広島国際大学大学院の中村さん（プラン名『インターネット上の洋服のバーチャル試着システム』）、広島市立大学の岡田さん（プラン名『高齢者や運動弱者のための自律移動支援システム 自律走行車椅子ロボット「マイウェイ」の開発』）が出場され、堂々としたプレゼンで健闘されましたが、惜しくも受賞には至りませんでした。



広島国際大学大学院の中村さん



広島市立大学の岡田さん

《受賞プラン紹介》

○ ビジネス部門大賞（経済産業大臣賞）

千葉工業大学 宇井 吉美さん

『未来の介護をデザインする排泄検知シート Lifilm』

宇井さんは、臭い（アンモニア、硫化水素）で排泄を検知する「排泄検知シート Lifilm」について発表されました。宇井さんは開発に至った経緯等について、「お祖母さんの介護に直面して介護、医療、福祉に興味をもち、介護実習の際にオムツを開けずに排泄タイミングを知りたいという介護現場のニーズを知った。Lifilmを通じて、従来の定期的なおむつ交換を排泄状況に即した交換とすることで患者の立場に立った介護、介護現場の負担軽減を実現したい」と力強く述べられました。宇井さんは製品化に向けて既に株式会社 aba を設立されています。

○ テクノロジー部門大賞（文部科学大臣賞）

大分大学大学院 村田 健太さん

『後付け式車いす用安全ストッパーによる転倒予防支援ビジネス』

村田さんは、車椅子から立ち上ると自動的にブレーキがかかる車椅子用安全ストッパーについて発表されました。村田さんは、「病院でのリハビリの仕事を通じて、車椅子のブレーキのかけ忘れによる転倒事故が多いこと、転倒による骨折で寝たきりになられる患者さんを目にし、医療現場を改善したいと思った」と開発に至った経緯を熱く述べられました。従来からブレーキ付の車椅子はありますが、村田さんが開発した安全ストッパーは、車椅子に後付け可能で安価、制動力が強い等の長があります。現在、病院において実証中で、医療現場の声を反映して必要な改良をくわえた上で実用化される予定とのことです。

○ 特別賞（MIT賞）

中京大学 磯部 左弥花さん

『運筆リズムにより短時間での上達を可能とするペン習字アプリ』

磯部さんは、スマートフォン用のペン習字アプリについて発表されました。単になぞるアプリはありますが、磯部さんのアプリは、なぞるリズム（スピードの変化）も判定することが特長で、実験の結果、単になぞるだけのものより、より早く上達できるとのことです。「デジタル化が進んでも履歴書など手書きの書類は多く、就職活動を前に字が上手になりたいとの声を良く聞く」と、学生ならではの着目点を披露されていました。

○ 特別賞（日刊工業新聞社賞）

新居浜工業高等専門学校 飯尾 歩美さん

『リンパ浮腫患者用サイズ変形可能靴』

飯尾さんは、スライドを用いて靴の長さ・幅を調節可能なリンパ浮腫患者用サイズ変形可能靴について発表されました。リンパ浮腫とは、リンパ管の流れが悪くなることで足、踵、腕などがふくれる病気です。飯尾さんは、左右の足のサイズが異なるために患者さんが左右の足用に2足の靴の購入を強いられていることに着目され、サイズ変形可能靴の開発を考えられたとのこと。今後は、医療専用の靴製造メーカーと提携して販売することを計画されています。

○ 特別賞（産業人クラブ賞）

東京大学大学院 三橋 克仁さん

『オンタイム学習プラットフォーム mambo.bo』

三橋さんは、タブレット端末等を用いて生徒が知りたいときに先生に質問ができるオンタイム学習プラットフォームについて発表されました。開発の経緯等について三橋さんは、「予備校の講師をしていた際に、写メールや電話で夜中に生徒から質問を受け取ることがあり、知りたいときに教え欲しいとの強いニーズを感じた。一方、先生はメールや電話で教えることは難しい。このギャップを埋めるのがmambo.boである」と自らの経験を基に説明されました。数式認識エンジンにより手書きの数式をデジタル化、グラフ化できる点が強みで、すでに塾と提携してトライアルを開始されているとのことでした。

○ 審査員特別賞

大阪大学大学院 中山 智詞さん

『“内視鏡医療の新しいカタチ” レーザーを用いた
・ドラッグデリバリーシステム』

中山さんは、内視鏡とレーザー技術を用いて、特定部位に抗がん剤などを注入するドラッグデリバリーシステムについて発表されました。抗がん剤を大量に経口投与した場合の副作用（吐き気、倦怠感等）の低減を図ることを目的とされており、技術的には、タンパク質の結晶化に用いられる技術を医療分野に応用されたものとのことでした。今後の予定としては、レーザーメーカーと提携した製品化を検討されています。また、審査員特別賞の授与にあたり、審査員長からサイエンスの分野であり事業化まで足は長い、イニシアチブ、チャレンジ精神を特に評価したいとのコメントがありました。

《所感》

今回初めてCVG全国大会を聴講しました。全国大会では学生の皆さんが起業に向けてエネルギーに活動されている姿を目の当たりにし、元気と勇気をもらいました。今回の受賞された各賞に共通する点は、事業性もさることながら自らの経験等に基づいて“社会を良くしたい”という熱い情熱があったと感じます。また、質疑応答では、審査員の方から、特許の出願状況、権利者について多数の厳しい質問があり、特許の重要性を再認識しました。特許等の権利の取り扱いについても良く検討されておくと良いと思います。